**「２０１５フェスティバル構想」検討状況について**

資料１

２０１４年１０月２３日

大阪アーツカウンシル

**○なぜフェスティバルなのか？**

**（大阪の課題）**

**文化資源は豊富**だが、**ジャンル間のつながり**や**交流**が弱い。

そのため、**文化力が見えず**、**都市魅力等に発展**していない。

***⇒これらを解消するために「フェスティバル」形式で実験を！***

＜フェスティバルの理念＞

大阪のテロワール（文化的な土壌から生まれた個性）を掘り下げ、磨き、新たな創造に生かす

**※テロワール…気候、地形、地質、土壌などの複合的な地域性から生まれる個性を意味する、主に食の表現に使われるフランス語**

**○めざす将来像・方向性**

**１）「いま大阪から発信している文化」の魅力を集約して伝える場としてのフェスティバルをつくる。大阪のテロワール（文化的な土壌から生まれた個性）を表現する。**

**２）その過程で人のつながりを深め、新たな創造の基盤を耕す。**

**３）他都市、海外からもアーティストや観客が集まるユニークなフェスティバルをめざす。**

**めざす将来像・方向性を実現するためには、長期的な取組みが不可欠。その第一歩として、まず初年度は、若手人材の発掘と育成のため、概ね４０歳以下のプロデューサーの自由な発想を具体化できる、フェスティバルというステージを用意**

（初年度については、最低限のルールと条件②when（開催時期）・③where（開催場所）はあらかじめ設定）

**また、フェスティバルを実施するにあたり、２０２０年の東京五輪・パラリンピックの文化プログラムで「どんな大阪を発信したいのか」もイメージしていく**

**①why（趣旨・背景）**

・大阪の文化的な魅力を集約して見せる場をつくる

・「大阪のテロワール」を掘り下げ、創造者・プロデューサーのネットワークを広げ、新たな創造の基盤を耕す

大阪全域の「ネットワーク型フェスティバル」へ（フェスの効果を広げる）

**【取組イメージ】**

３年目

（2017）

２年目

（2016）

新たな創造（ジャンルミックス）

人材交流・育成と情報発信（ガイドブックの作成、講座・国際シンポジウム等）

1年目

（2015）

**②when（開催時期）**

他の事業との連携、相乗効果が期待できる１０月～１１月の週末１０日間で設定

例）ショーケース　　２０１５年１０月　９日（金）～１０月１２日（月）

ワークショップ　２０１５年１０月１６日（金）～１０月１８日（日）

本公演　　　　　２０１５年１０月３０日（金）～１１月　１日（日）

**③where（開催場所）**

**2015年度は大阪市中央公会堂を中心とした中之島エリアで設定**

※なぜ中之島か？→　中央公会堂をはじめとした公立・民間の文化施設が集積するなど、大阪の文化を象徴するエリアの一つとして認知されており、連携や相乗効果をめざせる

**④who（主催・出演）**

　プロデューサー・キュレーター等の選任は「U40」を対象に進める

・U40…40歳以下のプロデューサー等で構成。事業の責任者としてコンテンツの企画制作、アーカイブ、発信、デザイン等を行うプロデューサーとその下で動く若手ディレクター数名を配置。事業のすべての事項を采配（人事、予算執行含む）

・事務局…府市で検討中

・アーツカウンシル…U40候補者の選任、理念・目的実現のアドバイスやサポート、評価部門による評価

**⑤what（実施内容）**

企画内容、実施方法はU40のプロデューサーに一任

**⑥to whom（コアターゲット）**

　広く府民・市民に。若手層を意識する。内容についてはU40プロデューサーに一任

**⑦how（実施詳細）**

事業の実施に最適な形を大阪府・大阪市も交えて検討中

**⑧how much（予算）**

調整中